

京都市水共生プラン基本方針提言(概要版)

～基本的な考え方～

私たちの手でみずみずしい都市とくらしの再生を！

京都では水にまつわる取組が歴史的に積み重ねられ、それが大きな財産となっている。その中で、豊かな水を生かした人びとの生活や世界に誇る独自の文化も育まれてきた。

今、「水と共に生きる」という水共生の理念のもと、京都が抱える治水・水環境・水循環など様々な水問題の解決に向け、市民、NPO、事業者、行政等が互いに連携して、粘り強く取り組んでいかなければならない。

さらに、この取組を成熟させ、持続可能なまちづくりの役割を全国に先がけて果たしていくことが期待される。



1 現状の課題

京都はこれまで、幾多の変遷を経てまちづくりが行われてきたが、その歴史の中では水にまつわる問題への取組が重要な役割を果たしている。世界に誇る京都の文化もその水によって育まれてきた。すなわち、京都のまちは水によって支えられてきたとも言える。

しかしながら、京都の近代化の中で都市化がさらに進行し、市街地が周辺部へ拡大するのに伴い、水との関わりも変化して以下のような様々な水問題が発生している。

治水問題

豪雨時における浸水被害の発生

水質問題

合流式下水道などに起因する雨天時の水質汚濁

水循環系の変化

地下水位の低下，河川の平常流量の減少，市街地の気温上昇

水に対する意識の変化

水のありがたさ，親しみ，怖さに対する意識の変化

水資源確保と雨水利用

雨水を活かすための本格的な取組

さらに、京都が水のまちとして再生するためには、これまでの長い歴史のなかで培われた京都の人びとと水との細やかな関わりを今こそ取り戻す必要がある。

2 施策の方向性

「水と共に生きる」という水共生の理念のもと、私たちの手でみずみずしい都市とくらしを再生するために、次に示す方向性を基本とする総合的な施策が求められる。

流域全体を見据えた治水対策

雨水の貯留浸透の促進や、水害に強い地域社会づくりに向けたソフト対策も含めた流域全体での総合的な治水対策を推進する。

良好な水環境の実現

雨水の貯留浸透や合流式下水道の改善等により、市民に身近なところに良好な水環境を実現する。

健全な水循環系の回復

都市化によって変化した水循環系を、雨水浸透等によりできるだけ自然本来の姿に近づける。

ゆたかな水文化の創造

身近な習慣を水でつなぐことや、水を仲立ちとした世代間あるいは新旧住民間のコミュニケーションにより、人びとの水に対する関心を呼び戻す。

雨水の利用

地下水を保全しながら、貴重な自己水源である雨水を積極的に利用する。

3 施策の推進方策

施策の方向性に示されている内容には、京都市の水に関わる多様な要素、立場、取組が含まれている。したがって、行政、市民、NPO、事業者等様々な立場の人たちが関わるため、それぞれの役割分担を明確にし、以下の視点で施策を推進すべきである。

(1) 市民・NPO・事業者・行政等の連携

住民参加から住民主体へ

施策の内容によっては、行政主体・住民参加の枠組から住民主体・行政参加への転換が必要と考えられる。

行政のサポート、事業者等との連携

住民主体の取組に対する行政の政策的な支援や行政主導での政策誘導も検討が必要で、事業者、市民との連携が今後ますます重要となってくる。

情報の公開と共有

市民自らが進んで行動するために、また、市民の有益な情報を把握するために、市民と行政の間で情報交換を促進し共有する必要がある。

(2) 行政の継続的取組

行動計画の策定

京都市は、ハード対策を率先して進めるだけでなく、市民、NPO、事業者等が重要な役割を担うソフト対策や環境学習の場を充実させる必要があり、そのための具体的な行動計画を策定する必要がある。

実行・検証・改善の継続的取組

京都市は、地域の住民やそれぞれの分野の専門家を交えた調査研究を行い、施策に反映させるとともに、実行・検証・改善という息の長い継続的な取組を進めていくべきである。

用語の定義

「住民と市民」「住民」という場合、地縁的な意味でそこに住んでいる人、あるいは地域に直接的な利害を有する人という限定的な意味で使われる場合が多い。「市民」という場合、地縁や特定の利害関係に関わらず、幅広い意味で用いられる場合が多い。

出典 河川審議会答申 「河川における市民団体等との連携方策のあり方について」

平成 12 年 12 月 19 日

「京都市水共生プラン」基本方針策定委員会名簿

委員長 なかがわ ひろし 中川 博次	立命館大学理工学部教授，京都大学名誉教授
委員 うえだ まさゆき 上田 正幸	京都・雨水利用をすすめる会代表
かだ ゆきこ 嘉田 由紀子	京都精華大学人文学部教授
くりやま かずひで 栗山 一秀	月桂冠大倉記念館名誉館長
せきね えいじ 関根 英爾	京都新聞社論説委員
のだ たけひと 野田 岳仁	立命館大学学生，ユースウォータージャパン代表
ふじい しげお 藤井 滋穂	京都大学大学院工学研究科附属 環境質制御研究センター教授
ますだ けいこ 増田 啓子	龍谷大学経済学部教授
やまもと ゆう 山本 ゆう	堀川高校学生

五十音順，敬称略